

農業、漁業の振興について



腰山 良悦 議員

質問 国の農政改革により、米生産農家の大規模化が進む中、当町のよな中山間地の農家は農地も少なく大規模化できず、今のままでコメの生産を続けていくのは難しくなると考える。良質米作りや、米に変わる、町の気候や土地に合った生産性の高い野菜・果物等畑作物への栽培の転換が必要だ。地産地消を増やし、耕作放棄地の解消も視野に入れ、JA、農家と一体の対応や支援の考えはあるのか。

また、燃油の高騰や漁獲量の減少、魚価の低迷



燃料の高騰により出漁を見送る船も…

一方、漁もなく、価格も安く、出漁しても燃料代にもならず、風でも休んでいるのが漁業の実態だ。燃料代の経費に占める割合は、農業と比較にならないくらい多い。町独自でも支援を考えると、

これらことから、漁業用燃油の町の支援は今のところ考えていない。

定住促進について

質問 空き家の斡旋や定住奨励金、住宅取得等助成金により、移住・定住を図っているが効果は少なく、若い世代や都会の人にとっては不便で不安であり魅力を感じていない。需要も効果もある宅地・住宅分譲の考えは、

少子化・人口減少対策プロジェクトを推進する諸課題について多面的、多角的に検討する。

六次産業化の促進について



笠原 吉範 議員

質問 六次産業化を促進することは、農林水産業の所得向上にとどまらず、後継者の定着、ひいては人口減対策にも有効な手段であると考えます。①農業、水産業の所得向上のため、六次産業化を促進するべきと思うが、どのような対策が必要か。②六次産業化に取り組みには、食品加工工場の建設など多額な費用が必要となるが支援策は。③廃校になった学校など、食品加工場に改修し、意欲のある個人や団体に貸出するなどの対策は。

①県と公益財団法人あきた企業活性化センターが連携しながら、地域資源を活用した新たな取り組みの支援や、農業漁業者と中小企業者等が連携した新商品開発等を応援している。町でも「八峰町雇用創出活動支援事業」を設け、新たに雇用創出を伴う事業化を目指す個人又は団体を応援し、「次世代経営六次産業化チャレンジ事業」で、認定農業者や農業法人等が、加工・流通・販売などの新たなビジネスに取り組みの際に必要な機械・施設等の導入に対して支援して

①自殺予防対策の一環として調査した「こころの健康と社会参加に関する調査」では若年層のひきこもりの方は52人

二ト・ひきこもり対策について

質問 県や他市町村が二ト・ひきこもりの支援を始めている中、八峰町も早急に取り組むべきでは。

②平成25年度には「ひきこもり等支援対策研修会」を開催。平成26年度は自治会に赴き心の健康づくり懇話会を開催する。また、保健師の訪問活動と、社会福祉協議会などの町内関係機関と情報を共有するため、「ひきこもり対策連絡協議会」を立ち上げ協議している。③社会参加されたひきこもりの方が、更に就労し自立できるよう努力する。

